

ディーセント・ワークを求めて：NIIGATA アピール

1999年、ILOは、「すべての人に“ディーセント・ワーク (DECENT WORK) : 働きがいのある人間らしい仕事”を確保すること」を新たな目標として掲げました。

しかし、その後も経済のグローバル化が世界の雇用労働の質を劣化させており、格差の拡大と労働者の貧困化が進行しています。

とくに日本国内にあっては、市場原理主義に基づく急激な規制緩和と短期利益・株主利益重視にシフトする経営のもとで不安定雇用やワーキングプアが急増し、偽装請負や日雇派遣、名ばかり管理職など、奴隷のような働かせ方がまかり通っています。非正規雇用が増える一方で正社員も過密な長労働時間で心身ともに疲れ果てており、二極化した雇用労働はいずれも「ディーセント」とは言えない働き方になっています。

労働は商品ではない (Labour is not a commodity.)。

これはILOの不朽の原則ですが、残念ながら現状は、商品として安易に使い捨てられていると言わざるを得ません。

労働は人間社会を支えるもっとも重要な営みです。働くことは尊いことであり、私たちは誇りの持てる働き方を目指してきました。しかし、今すすんでいるのは、まさに労働の非人間化に他なりません。

今こそ労働の尊厳を、人間らしい働き方を取り戻すべき時です。

明日(5月11日)からここ新潟市で開催されるG8労働大臣会合を前に、国際目標である「ディーセント・ワーク」を国内外のすべての労働者に保障していくことを願って、私たちは本日ここに集いました。

G8労働大臣会合に私たちの現状と願いが反映され、さらに世界に広がることを期待します。また私たち自らが「ディーセント・ワーク」の実現を目指してそれぞれの立場から行動していくことを表明します。

国際労働運動の課題は、現場で働く一人ひとりの労働者の願いであると同時に、国際的な運動の積み上げによって達成されるものです。

私たちは世界のすべての働く人たちに訴えます。

連帯しよう！ 行動しよう！ ディーセント・ワークを実現しよう！

2008年5月10日

G8労働大臣会合・労組イベント
「ディーセント・ワークを求めて」新潟集会